

情報交差点・心と心の交わり

あじまへ

第9回 科学の甲子園ジュニア

大宜味村教育委員会

電話 44-3006

FAX 44-3020

全国大会出場決定!!



大宜味中学校2年 奈良樹くん、宮城泰斗くん、森田海斗くん

10月1日（金）に行われた、第9回科学の甲子園ジュニア沖縄県大会に大宜味中学校2年生の奈良樹くん、宮城泰斗くん、森田海斗くんが出演し、総合の部で準優勝となり、見事全国大会への切符を手に入れました。

科学の甲子園ジュニアでは理科・数学などの複数分野において、実生活・実社会との関連、融合領域に配慮した出題される筆記競技とものづくりの能力、コミュニケーション能力などを用いて課題解決する実技試験で競われます。

大宜味中は筆記試験3位、実技試験1位となり、総合2位の結果となりました。

実技試験ではクラスメイトからも意見をもらい、構造物の改良をしていった3名。「筆記試験は難しかったけど、実技試験では最高得点を取れたので嬉しかった」と大会をふり返りました。

全国大会は兵庫県で行われる予定でしたが、今年はコロナウイルス感染拡大防止のため分散開催となり、12月3日（金）オンラインで行われます。3名は那覇市寄宮中学校の生徒とともに沖縄県を代表して出場します。実技試験の課題を待つ間、筆記試験に励む3名。全国大会に向け「地区大会も県大会も2位だった。寄宮中の生徒と協力して全国大会では優勝を目指したい!」と意気込みました。

大宜味中、そして沖縄県の代表として活躍してくれることを期待します!

沖縄にいなから、異国を学ぶ 話して学ぶ英会話 まちなか留学実施

令和3年10月8日（金）から10日（日）までの2泊3日間、「まちなか留学」が行われました。まちなか留学とは、例年実施していた「海外短期留学事業」が新型コロナウイルスの影響により海外へ行くことが困難な状況のため昨年度から中止となり、当事業の代替事業として県内に住む外国人宅にホームステイし、語学や文化等を学ぶ事業です。今回は中学生を対象に絞り募集したところ、大宜味中学校2年生及び3年生の生徒合わせて13名の応募があり、参加生徒は事前にスピーキング練習や実際にタイの学



生とのオンライン交流・学習を経て留学当日を迎えました。

沖縄市で行われた留学初日のセレモニーでは参加生徒と各ホストファミリーが集まり、参加生徒代表として藤田雫さんが英語で挨拶を行い、セレモニー後は各ホストファミリー宅へ移動し、生徒それぞれのホームステイ先で体験・交流を行いました。最終日の10日（日）に行われた最終セレモニーでは、初日に見られた緊張は無く、「ホストファミリーとたくさん喋ってコミュニケーションがとれて、とても良い留学ができた」と生徒それぞれの留学生活を充実した様子で会場へ集まり、ホスト



ファミリーと最後の別れを惜しみました。

参加された生徒には「まちなか留学」で学んだ体験を今後に関し、将来の活躍を期待しております。

楽しみながら学ぼう♪そして伝えよう… 紙漉き指導者研修



10月9日（土）～10日（日）、旧大宜味小学校家庭科室において令和3年度ぶながやの里生涯学習講座「紙漉き指導者研修」が開催されました。

毎年、大宜味小学校で行われているシークワサーとバショウを使った卒業証書作成では琉球大学で研修を受けた受講生が指導にあたっています。指導者が増えることで学校での卒業証書作成をこれから先も続けていくこ

とができるため、今回は指導者を育成するための研修となりました。

本来なら琉球大学に出向き、先生から直接指導を受けたかったのですが、今回は村内で島袋経子さんに直接指導してもらいながら、琉球大学の仲間伸恵先生、岡本牧子先生にリモートで指導を受ける実習となりました。

紙漉きの大きな工程は①シークワサーで染め液を作る、②バショウで紙の原料を作り、シークワサーの染め液に浸ける、③紙を漉く。卒業証書作成ではこれらの作業を3日間で行いますが、今回は①、②を初日で終わらせ、紙漉きを2日目に行いました。

一通りの工程を覚えてもらう他、紙漉きでは画面越しで先生に見てもらいながら、どんな角度で簾桁を入れたらいいか、簾桁の揺らし方などをアドバイスしてもらいました。

受講生たちは写真やメモを取りながら、2日間みっちり学びました。

新たな指導者の誕生を目指し、今後も研修を続けていきたいと思ひます。



わんぱく力を見せつけろ! 令和3年度わんぱく体験団 第2弾「ぷちぷちサバイバル」

10月4日（月）、わんぱく体験団第2弾「ぷちぷちサバイバル」が開催されました。相次ぐ緊急事態宣言の延長でこれまで予定していた活動が中止、延期となり、やっとできるようになった活動。キャンプはできなくてもわんぱくらしい活動にしたいと、自分のご飯は自分で作る、ついでに海からおかずを収穫しようということで、空き缶ジュースと釣り体験をしました。



まずは釣りから…。この日の満潮は夕方。テトラポットの上から釣り糸を垂らし晩ごはんのおかずをゲットします。事前の調査ではあまり釣果が期待できない(1匹も釣れないのでは?)と思ひていましたが、さすがわんぱく見事3匹の魚をゲット!あの状況で素晴らしい結果を出してくれました。



釣りが終われば、もちろん海へ。ライフジャケットを付け、怖いものなしのわんぱくたちはどどん奥へ(こっちはヒヤヒヤ(-_-;)) 夕方の穏やかな海を楽しみました。



海から上がったなら、本日の大イベント空き缶ジュース。2つの空き缶を使ってかまどと飯ごうにし、ジュースを作ります。

普段なかなか使うことがない缶切りやカッターで缶を切るという作業に戸惑いながらも何とか仕上げ、いよいよ炊飯。ここでのポイントは火を絶やさないと。ここでも悪戦苦闘するかと思ひきや、難なくこなすわんぱくたち。失敗もなく美味しいジュースができました。

コロナウイルスの影響で思うように活動ができない中ですが、わんぱくたちは日頃の遊びや学びでわんぱく力をつけているようでうれしく思ひました。

11月の活動にも期待します。





令和3年度 おおぎみこども園 第2回 運動会



幼児部のお兄さん、お姉さんたちはオリンピックごっこやバランス、ぼっくり、とび箱、竹馬など様々な運動あそびにチャレンジ、かけっこの走りも力強く、ちょんちょんきじむなーの踊りもキマっていました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため平日の開催となりましたが、園児たちは家族の応援を受けながら、それぞれ1番の活躍を見せてくれました。



10月6日（水）、令和3年度おおぎみこども園第2回運動会が開催されました。保育部は親子での種目を楽しむたんぽぽ組、一本橋や鉄棒に挑戦するすみれ組、トンボのめがねの曲に合わせて体を動かすちゅうりっぷ組、どの園児もめいいっぱい体を動かして表現し、応援に来た家族を喜ばせました。

図書室情報

No.27 2021年（令和3年）11月

大宜味村図書室（旧大宜味小学校2F：村史編集係内）
大宜味村字大宜味1番地 0980-44-3009

利用状況累計

- 来室者数…のべ 1,262人
- 貸出冊数…2,399冊
- 登録者数…104人

- 10月の統計（10/25まで）
- 来室者数…のべ53人
- 貸出冊数…97冊

★現在の蔵書数…6,327冊+県立図書館の本500冊

寄贈図書紹介



新着（リクエスト）本紹介※（11月上旬～貸出予定）



来室の際は マスクの着用、手指の消毒、できるだけ少人数でのご利用をお願いします。体調の優れない方は来室を控えてください。皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。



11月図書室カレンダー 閉室日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				



村史編さんだより

第127号 2021年11月1日 大宜味村村史編纂係44-3009



戦前～昭和時代の写真を集めています★

大宜味村史「写真集」の発刊に向け、村史だよりや区長会で呼びかけをしていることもあり、写真資料は少しずつ集まりつつありますが、既存の写真と合わせてもまだまだ不足しています。また、字によって収集状況に差があり、その差が字ごとの掲載ページ数に反映することが考えられます。今一度、引き出しや押入れに眠っている写真に、再び光を当て、未来に残そうではありませんか！

特にこれから字誌発刊をお考えの字にとっては、写真収集は発刊の大きな一歩になるはずで。お預かりした写真をご希望があれば引延しやラミネート加工をしてお返しいたします。村民皆様のお力添えで、内容豊かな写真集にできればと思っておりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

★各字の写真収集状況★(寄贈、提供件数)

喜如嘉住区	大宜味住区	塩屋住区	津波住区
田嘉里 4	饒波 3	塩屋 2	白浜 2
謝名城 2	大兼久 1	屋古 2	宮城 2
喜如嘉 4	大宜味 0	田港 2	江洲 2
	根路銘 2	押川 1	津波 2
	上原 0	大保 1	

- 募集期間：令和4年3月まで随時
- 対象写真：明治～昭和期の家族写真、集合写真、風景、行事、日常生活、建物など。
- 収集方法：村史編さん係（村立図書室内）までお持ちいただくか、お宅へ伺い状況に合わせてその場で撮影、もしくはお借りしてスキャンデータをとった後、速やかにお返しします。

寄贈ありがとうございました♪



▲タンブー（炭俵）編み（饒波 1970年代）



▲子守り（饒波 1970年代）



▲塩屋販売店（戦前）



▲ビクターセンター前の海岸か（戦前）



▲子供の遊び（饒波 1970年代）



▲：塩屋ハーミンジョー登り口



▲ハーミンジョーからの景色（戦前）

※左2枚と右下は饒波の仲井間幸子様、その他は那覇市の川間様提供

あなたの1枚が未来を照らす！

『仙山制度論』（仲吉朝助著・明治三十七年）を読む 十二（村史だより一二六号より続き）

第六章 仙山の造林
第三 藪山仕立換

大木は伐採し盡（つく）して矮小なる樹木残存せる粗朶林を藪山と名づく。即ち前記憔悴山の尚一層憔悴したるものなり。藪山の仕立換即ち更新をなすべき面積は各間切、各村その担当藪山の形況及び人口等に依りて予め山奉行所より之を定めたり。之を定式藪山仕立敷と名づく。而して毎年山奉行春秋巡回の際に於てその仕立換をなすべき場所を指定すればその担当間切、村はその年の秋期即ち甘露の期節前に於て指定された箇所に就き、定式の坪数に相当する面積を量りてその立木を伐採してその儘放置し日光に当てその乾燥するを待ちて点火し置き以て下種の準備をなす。之を藪山焼払と称す。担当間切、村に於て此の如き準備終われば山奉行は秋期巡回の際に現地に臨みその目前に於てその面積に相当する所の樹木種子量を検査して之を下種せしむ。

藪山仕立換の際に播種すべき樹木の種類は一定せず主任山奉行又は山筆者の見込を以て時々変更すと雖も、多くは松を下種するを常とす。是れその種子の採取容易なることと生長速なること、造船材、薪炭材に多く用ゆること等の事情あるに依れり。而して藪山焼払いを必ず甘露前に行わしむるは、松種子は甘露の期節に至れば既に成熟して飛散する為め人工下種の外に天然下種を行うことを得ればなり。尚、山奉行が藪山仕立換に關し命令したる実例を左に掲げしむ。

一、当秋定式仙山御仕立敷場之儀當春見分仕置候所坪不足無之様当月中限雜羽木ナキ取致焼払松種子坪に四才之例を以時節不取扱様取調置（今秋の定式仕立敷については、春に見当をつけていた場所は坪不足もなく、当中に雜木もなくした上で焼き払い、松の種子を坪辺り四才を基準に撒く。しかし、この時期を過ぎると適切でないので、蒔入時期をしっかりと守ること）

尤底タイチヨ仕立相応之所は種子蒔入させ候間坪高相考右種子も坪に八才之例を以取調置回勤之砌夫々可蒔入事付恩納、今帰仁、両間切へは底々見合センダン種子も蒔入させ候間成丈種子寛可仕置候（イジュの仕立に適した所への種子蒔き入れは、坪高を考慮の上八才を基準とし、この例に沿って蒔入を行なうこと。この時、なるべく恩納、今帰仁両間切に於てはセンダンの種子も蒔き入れさせること）（今帰仁間切役場保管の日記）

第二節 造林費

既に述べし如く仙山所在の間切、島、村の各々その管理せる仙山の造林を行い保護をなすの義務あるものなれば、造林費の如きも国より当該間切、島、村の負担なれども琉球藩は林政拡張の当時に在りては中頭、国頭の各間切に対して之を補助したり即ち

一、仙山仕立夫之儀各間切上納日用銭之内国頭は一ヶ月分北谷、読谷山、越来、美里、具志川五ヶ間切は一ヶ月分の半分、中城、西原両間切へは一ヶ月分之三ヶ一差分賃銭被成下乾隆十四年土の己巳迄任立山相仕回右賃銭跡々之通御蔵入召成候事（仙山仕立夫の賃金は各間切上納日に國頭間切は一ヶ月分、北谷、読谷山、越来、美里、具志川の五ヶ間切は一ヶ月の半分、中城、西原両間切は一ヶ月の三分の一を乾隆十四年己巳の日まで補助するものとするが、その後でも申請があれば補助が行われた）

付、前々仙山猥（みだり）に伐開仕立夫及敷萬人召付被置候御蔵夫にては仕立方不罷成候故右件各間切検者役々之者熟談を以農事之隙見合加勢夫大分差出心之及丈相働漸相仕回申候（以前より仙山伐開仕立が多すぎて労務及び多数の民の使役によらなければ達成することが出来なかつたので、右の件を各間切検者役人はよく話し合い農事の合間を見て大勢の加勢夫を投入し事業を進めること）向後之儀明問出来候わば補方間切請込にて可相済候間此程被下置候日用銭之儀御蔵入被仰付度旨捌庫理書付検者両総地頭次書を以申出 趣有之本文之通被仰付候（山奉行所公事帳）

に依れば藩庁は仙山造林の為に頗る巨額の補助費を下付せるもその事業整頓せしにより一応その下付を停止せり。然るにその後各間切に於て仕立つべき箇所多きに達すれば臨時請願して尚その下付を受けしこと縷々之れあり。今その一例を示せば左の如し。

㊦ 口上覚 ㊦

羽地間切

藪山拾八萬坪
右者乍恐申上候当間切藪山之儀威豊二子年乞下訴御印紙表去年迄にて仕立相遂申候処仙山之内猶又本行之坪高藪山に相成ワラビ薄雜曲木生茂り御用木一圓萌立不申今成にては急度焼払を以仕立換不仕は往々御用木兼兼可申と至極心配罷在申候間何卒当年より来未迄三ヶ年一ヶ年に六萬坪宛以前之通諸木御仕立換仰付被下度奉願候尤間切造作を以仕立可仕儀御座候得共大分高何分不能力次第御座候間（中略）年々三ヶ月分之日用銭高仕立料成下され度此是又奉願候云々威豊七年（安政四年）丁巳閏五月間切吏員連署（羽地間切役場保管の肝要日記）

（※訳文は大意を記す。浅学につき御笑覧の上、御教授請う 文責：新城）



「しまふとうば」ぬくとう 70



うみがーみー

数年前にタビオカ（キャッサバ）とクジキン（クズウコン）を少しばかり栽培し、少々難儀な工程を経て乾燥粉末にし、冷凍庫に保管していた。一昔前までは多くの農家がタビオカやクジキンを畑の片隅に植えていて、やはりでんぷん粉にして乾燥した状態で保管し、非常食として確保していた。台風時などにタビオカ天ぷら、クジキン天ぷらを食べた記憶があり、モチモチ感と少しの甘みがあってとてもおいしかったことを味覚神経が覚えている。

先日、せっかく難儀してでんぷん粉にし冷凍保存していたのにと、タビオカ、クジキン粉を使って天ぷらを作ってみた。モチモチ感と独特の風味は懐かしさもあり、やはり美味しかった。今回のレシピは次のとおりである。タビオカ粉（クジキン粉も同）250g程、サツマイモ500g程、砂糖100g程。煮たイモの皮をむいて、つぶしながらタビオカ粉と砂糖を加えて練り、適度な大きさに成型したものを油で揚げる。殆ど台所に立つことがない私が作っても美味しかった。私の味感覚ではクジキンよりもタビオカの方がモチモチ感が強くておいしく感じられた。

タビオカは食味の良い種類を植えているので、イモとして食しても少しばかり甘みがあり美味しくいただける。クジキンも今度はイモとして食べてみようと思う。

災害等により電気が使えなくなると冷蔵庫をはじめ電化製品が役に立たなくなる。そんな時に食物関係では乾物が活躍する。タビオカ、クジキン等を作ってみませんか？

～ あきよなち（懐）かはぬ タビオカ天ぷらや むかしんちゅ（昔人）ぬなれー（習い）ゆゆ（代々）にぬく（残）は ～



寄付

大宜味村育英会へ

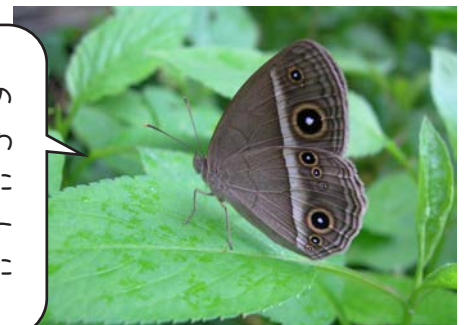
字押川 外間 栄光 様 多額の寄付ありがとうございました。

令和3年10月14日寄付

今月の生きもの

リュウキュウヒメジャノメ：ジャノメチョウ科

ど～も、私、リュウキュウヒメジャノメです。
みなさんもお気づきの通り、翅の模様がヘビの目のように見えるのでジャノメと言う名前がついています。ちなみにヒメは小さくてかわいいからですって…。この模様は捕食者からの目をくらませるために効果があるの。本物のヘビと間違われて捕食されたとしても、翅の一部だけで体は傷つかず逃げることができるの。結構、みんなの近くにいますよ。探してみてくださいね。



11月の行事予定

- | | |
|-------------------------|----------------------------------|
| 1日（月）区長会 修学旅行 ～2日（小6） | 20日（土）地区ミナソク交歓会、23日 |
| 3日（水）文化の日 | 21日（日）（中）地区総合文化祭・音楽発表会
中学校登校日 |
| 5日（金）県広域地震・津波避難訓練 | 22日（月）（中）振替休日（11/21 登校日） |
| 6日（土）わんぱく体験団③ | 23日（火）勤労感謝の日 |
| 9日（火）まちなか留学報告会 | 25日（木）定例教育委員会議 |
| 12日（金）（園）秋の遠足 | 28日（日）（小）日曜参観 親子きらめき体験 |
| 17日（水）地区小中学校童話・お話・意見発表会 | 29日（月）（小）振替休日（11/28 日曜参観） |

